

株主情報

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

剰余金の配当の基準日

期 末 配 当 3月31日

中 間 配 当 9月30日

定 時 株 主 総 会 毎年6月

株 主 名 簿 管 理 人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711（通話料無料）

上 場 証 券 取 引 所 大阪証券取引所JASDAQ（スタンダード）

公 告 の 方 法
電子公告により行います。
公告掲載URL
<http://www.ajis-group.co.jp/ir/e-koukoku/index.html>
（ただし、電子公告によることができない事故、
その他のやむを得ない事由が生じたときは、
日本経済新聞に公告いたします。）

（ご注意）

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。

○ 株主優待制度のご案内

株式会社エイジスは、株主の皆様への利益還元のひとつとして株主優待制度を実施しております。



● 割当基準日 9月末日

● 優待内容

100株以上1,000株未満所有の株主様

お米券3kgを贈呈いたします。

1,000株以上10,000株未満所有の株主様

お米券5kgを贈呈いたします。

10,000株以上所有の株主様

お米券10kgを贈呈いたします。



株式会社エイジス

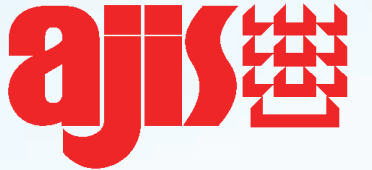
〒262-0032 千葉県千葉市花見川区幕張町4-544-4

TEL：043-350-0888 FAX：043-350-0800

第35期 報 告 書

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

“Low Cost Operation” 時代の棚卸システム

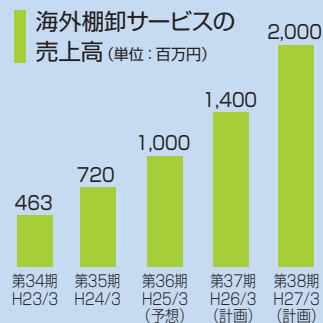


株式会社エイジス

証券コード：4659

北京・タイ・香港に新拠点設立

成長著しい中国は最重要市場と捉え、上海、広州に続き、北京および香港に子会社を新設いたしました。中国全土にサービス網を広げ、海外でのさらなる飛躍を目指します。



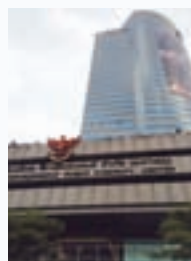
愛捷是(北京)商務服務有限公司



入居ビル外観

2011年4月に設立いたしました。現在、北京市・天津市・山東省等を中心に営業活動を展開しています。中国では上海に次ぐ第2の都市であり、多くの流通企業が中国本部を設置しています。今後も急速な成長が予想される地域で一層の事業基盤強化・拡大を目指してまいります。

AJIS (THAILAND) COMPANY LIMITED



入居ビル外観

2011年7月に設立いたしました。現在は首都バンコク都を中心に営業活動を展開しています。タイは東南アジアにおける代表的な工業国として高い経済成長率を維持しています。流通小売業も安定成長が続いており、今後の成長が期待できるタイで一層の事業基盤強化・拡大を目指してまいります。

AJIS (HONG KONG) COMPANY LIMITED



入居ビル外観

2011年8月に設立いたしました。現在、香港特別行政区で営業活動を展開しています。中国のみならずアジアの地域本部を置く事業も多数あり、当社のグローバル化を進める中心として、一層の事業基盤強化・拡大を目指してまいります。

トップインタビュー



成長のためのキーワードは
『アジア展開』と『精度の向上』
エイジスブランドの確立に向けて

代表取締役社長 齋藤昭生



当期の事業環境と経営成績についてお聞かせください。

当社グループの主要顧客である流通小売業界は、デフレの進行と個人消費の低迷等により、引き続き厳しい競争を強いられています。当社グループが主業務とする棚卸サービスに対しても、コストダウン要請は厳しくなっています。

このように厳しい環境の中、当社グループは主力の国内棚卸サービスでは、全社ベースで増収を確保したものの、利益面では国内棚卸サービスでの受注単価の下落、さらに新規事業として育成中の海外棚卸サービスやリテールサポートサービスの損失計上等により、減益を余儀なくされました。

この結果、当期の連結経営成績は、売上高は18,506百万円(前期比5.6%増)、営業利益は1,409百万円(前期比13.9%減)、経常利益は1,444百万円(前期比14.7%減)、当期純利益は611百万円(前期比26.8%減)となりました。



当期の主な取り組みとその成果をお聞かせください。

主力の国内棚卸サービスでは、きめ細かい地域密着営業等が奏功したこと、震災後の臨時棚卸を受注したこと等により、厳しい事業環境の中で増収となりました。当期末時点での棚卸実施店舗数(国内・年間延べ数)は、142,000店舗強となり、前期末に比べ約6,500店舗増加しています。また、従来より取り組んできました棚卸業務の精度および生産性の向上でも一定の成果が上がっております。当社の基準によると、2009年3月期を100とした場合、当期の精度は100.14、生産性は112と向上しています。

海外棚卸サービスでは当期、北京・タイ・香港と3拠点を新設しました。海外拠点の新設は、前期の広州・インドを加え直近2年で5カ所というハイペースで推移しております。これは当社グループのお客様であるチェーンストアがアジア展開を加速していることに対応するための施策として先行投資しているものであります。お客様は海外の店舗においても日本国内と同一の品質での棚卸サービスを求めており、お客様が海外で店舗を出す以上、当社グループがそ

れに対処していくことは当然の責務であると考えています。このほか既進出エリアである韓国でも大きな商談がまとまるなど、今後につながる成果が相次いでいます。

リテイルサポートサービスでは、子会社であるエイジススタッフサービス(株)が手がける人材派遣・集中補充サービス、同じく子会社の(株)カスタマーサービス・チェックが手がける覆面調査サービスがともに順調に事業規模を拡大しています。とくに覆面調査サービスは、下期に売上高前年同期比60%増と大きく伸長しており、今後さらなる飛躍を期待しています。

Q 今後の成長戦略をお聞かせください。

当社グループは現在、2015年3月期を最終年度とした中期計画を推進中です。この計画では、「アジアにおけるエイジスブランドの確立」を大きな方針として位置づけております。海外棚卸サービスの売上高を年率30%以上で成長させ、2015年3月期には黒字化を実現するという意欲的な目標を掲げています。

この方針に基づいてここ数年、アジアでの拠点整備を急

いできました。当面必要な拠点の整備は完了したと判断しており、今後は既存拠点を最大限に活用することに注力していく方針です。日系や欧米系の企業のみでなく、現地資本のチェーンストアにも積極的に営業攻勢をかけて、新規顧客を開拓していかなければなりません。

アジアの棚卸マーケットは今後の急成長が期待できるため、当社グループだけでなく、米国大手棚卸会社も市場開拓を狙って進出しています。こうした強力なライバルとの競争に打ち勝つため、当社グループは、アジア最大の棚卸会社であるという強みを活かすだけでなく、日本国内と同等の高い品質を提供してまいります。そのためにも現地スタッフの育成、現地に最適な事業展開を任せられるような現地幹部社員の育成に努めてまいります。また、国内で展開しているリテイルサポートサービスを海外でも展開するなど、当社グループの総力を挙げてアジア展開、グローバル展開を成功させる所存です。

国内棚卸サービスでは、精度のさらなる向上という永遠の課題に引き続き取り組むことが、やはり最重要課題となります。そのためにも技術開発や人材育成に投資をしていきます。それらを通じて独自技術を身につけた「プロフェッショナル集団」を構築し、他社の追随を許さない、圧倒

的な精度を実現していくことで、さらに収益性を向上させてまいります。一方で、それを海外にも波及させていきます。また、リテイルサポートサービスでは、流通小売業のみならず他の業種にも提案営業を積極的に推進するなど、新商品の開発や新業態の開拓を進めてまいります。

Q 2013年3月期の事業計画についてお聞かせください。

国内棚卸サービスでは、前期に引き続き「精度の向上」を最大のテーマに掲げます。これまでは「精度と生産性の向上」を求めてきたのですが、あえて「精度」に絞り込みました。精度が上がれば、生産性は後からついてくると判断したためです。棚卸業務とは、「商品を正しく数えること」です。これまでも当社グループは、ブロックカウントという高度なカウント方法や、棚卸専門機器の導入等を通じて精度向上に努めてきましたが、限られた時間で膨大な商品を数えるわけですから、どうしてもミスが発生することもあります。しかし「人間だから間違えるのは仕方ない」と考えてしまえば、そこで「精度の向上」は止まってしまいます。脳科学的なアプローチを取り入れたり、数え間違いを誘発する「錯覚」を研究したりするなど、一見すると当社グループの事業内容とは無縁に見える様々な専門領域からも技術を結集し、精度のさらなる向上に挑んでまいります。

もう一つの重点テーマは、海外棚卸サービスの拡大です。これまでの先行投資によって、すでに態勢は整っているため、顧客開拓を最優先として取り組んでまいります。そして、早期の黒字化を実現していかなければなりません。

2013年3月期の通期連結業績予想としましては、売上高は19,170百万円(前期比3.6%増)、営業利益は1,312百万円(前期比6.9%減)、経常利益は1,355百万円(前期比6.2%減)、当期純利益は670百万円(前期比9.7%増)を見込んでいます。

Q 最後に、株主様へのメッセージをお願いします。

当社グループは株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題と位置付けており、長期的に安定した収益力を保持すると同時に、企業体質強化のための内部留保を勘案し安定した利益配分を持続させることを基本方針としております。このような方針に基づき、当期の配当金につきましては、1株当たり期末配当45円とさせていただきます。

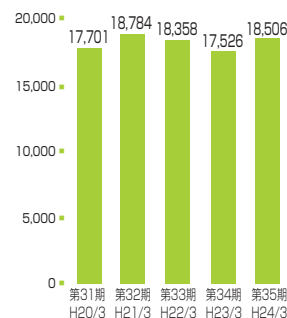
当社グループは、事業を通じてチェーンストアのローコストオペレーションに貢献することが、最終的には一般消費者の方々の利益にもつながると確信しており、これこそが当社グループにとって最大の社会貢献であると考えております。そして、こうした社会に必要なとされる事業をさらに成長させていくことによって、株主の皆様から賜ったご厚情にもお応えしてまいれる所存であります。

当社グループは今、アジアへの事業展開という新たな成長ステージに向けて歩み始めました。国内棚卸サービス業界で約8割の高いシェアを占める当社グループですが、その地位に安住することなく、リスクを恐れずに挑戦し続けることで、さらなる成長を実現してまいりたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、当社グループの取り組みを是非ご理解いただき、今後ともさらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

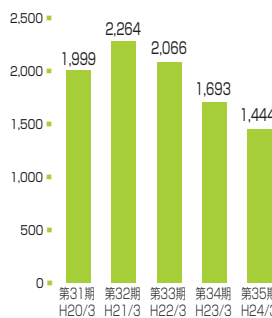
連結売上高

(単位：百万円)



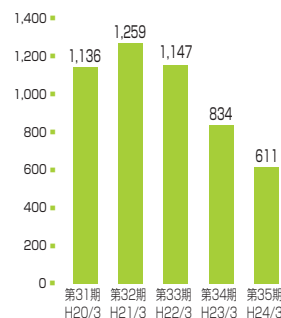
連結経常利益

(単位：百万円)



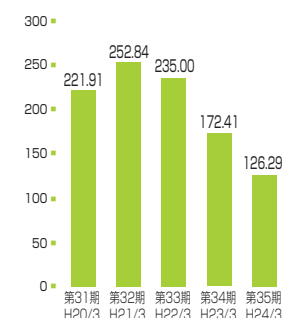
連結当期純利益

(単位：百万円)



連結1株当たり当期純利益

(単位：円)



当期の概況（連結）

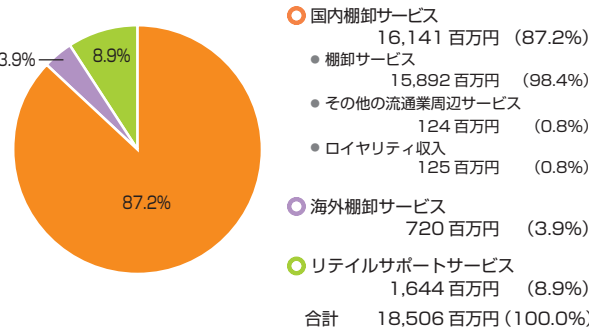
当連結会計年度におけるわが国経済は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響等により、企業業績や雇用情勢の持ち直しは見られるものの依然として厳しい状況で推移いたしました。また、欧米の財政問題、円高の進行やタイの大洪水等により景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの主要顧客であります流通小売業界においては、一部に企業業績の改善も見られるものの、引き続き流通小売業界全体での業態、業種を超える競争や先行き不安により、厳しい経営環境が続いております。一方でアジアに進出を加速する企業も多くなってきております。

このような経営環境の中、当社グループは主たる棚卸業務である実地棚卸サービス事業においては、積極的にシステム開発投資、技術開発投資および海外子会社の新設を図ってまいりました。当連結会計年度に、北京、タイおよび香港に子会社を新設いたしました。また、地域密着営業を行うために営業部門を強化し、顧客開拓を推進してまいりました。

事業の区分別売上高

（構成比）



しかしながら、システム開発投資については、新たなシステムへの移行に比べ、既存システムに新たなシステムの一部を組み入れたほうが、費用対効果が高いと判断するに至り、新たなシステム投資額のうち既存システムに組み入れることができない部分を除却し133百万円を特別損失として計上いたしました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高18,506百万円（前期比5.6％増）、営業利益1,409百万円（前期比13.9％減）、経常利益1,444百万円（前期比14.7％減）、当期純利益611百万円（前期比26.8％減）となりました。

セグメント別の概況

国内棚卸サービス

国内棚卸受託収入

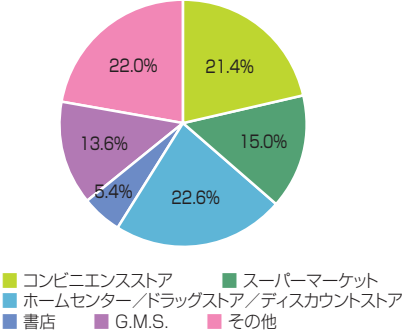
棚卸サービスの売上高は前期比2.2％増の15,892百万円となりました。業態別の内訳は下記のとおりです。

コンビニエンスストア

既存顧客の受注増により、売上高は前期比1.0％増の3,394百万円となりました。

国内棚卸受託収入の業態別売上高

（構成比）



スーパーマーケット

既存顧客の受注増により、売上高は前期比7.2％増の2,384百万円となりました。

ホームセンター・ドラッグストア・ディスカウントストア
既存顧客の単価下落等により、売上高は前期比1.9％減の3,595百万円となりました。

書店

既存顧客の単価下落等により、売上高は前期比0.4％減の864百万円となりました。

G.M.S.*

既存顧客の受注増により、売上高は前期比1.4％増の2,157百万円となりました。

その他

既存顧客の受注増により、売上高は前期比5.7％増の3,495百万円となりました。

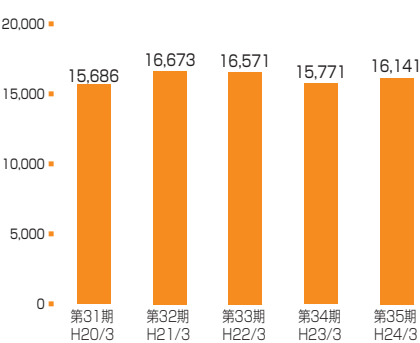
その他の流通業周辺サービス

新規顧客の受注により、売上高は前期比36.7％増の124百万円となりました。

国内棚卸サービスとその他の流通業周辺サービスに、ロイヤリティ収入の125百万円を加えると、国内棚卸サービスの売上高合計は16,141百万円（前期比2.3％増）、セグメン

国内棚卸サービスの売上高

（単位：百万円）



ト利益は1,513百万円（前期比6.2％減）となりました。

海外棚卸サービス

従来からのエイジスビジネスサポート株式会社に加え、当連結会計年度から艾捷是（上海）商務服務有限公司、AJIS (MALAYSIA) SDN. BHD.、愛捷是（広州）商務服務有限公司および愛捷是（北京）商務服務有限公司の4社を連結子会社にいたしました。海外棚卸サービスの売上高合計は720百万円（前期比55.5％増）、セグメント損失は70百万円（前期セグメント利益15百万円）となりました。

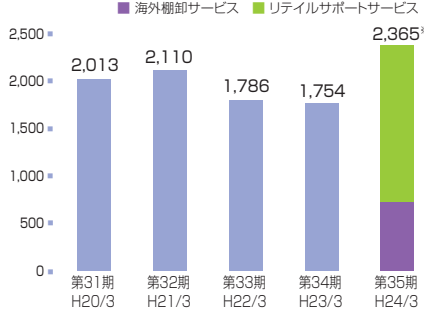
リテイルサポートサービス

従来からのエイジススタッフサービス株式会社に加え、当連結会計年度から株式会社カスタマーサービス・チェックを連結子会社にいたしました。リテイルサポートサービスの売上高合計は1,644百万円（前期比27.3％増）、セグメント損失は46百万円（前期セグメント利益1百万円）となりました。

* G.M.S. (General Merchandise Store)
大衆実用品のうち、新機能開発品主力の総合店。いわゆる日本型大型総合スーパーであります。

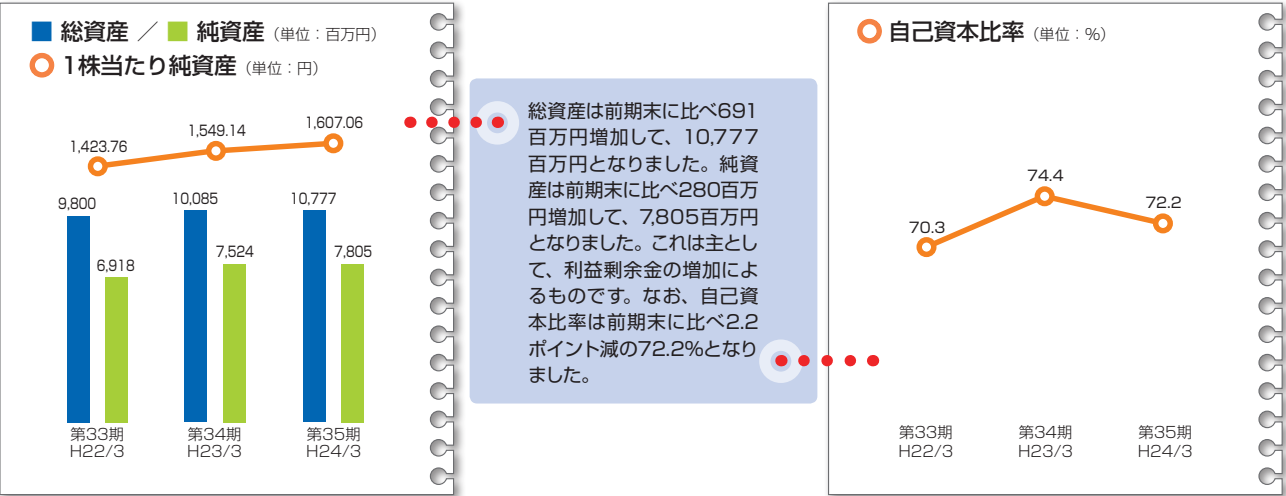
海外棚卸サービスおよびリテイルサポートサービスの売上高

（単位：百万円）

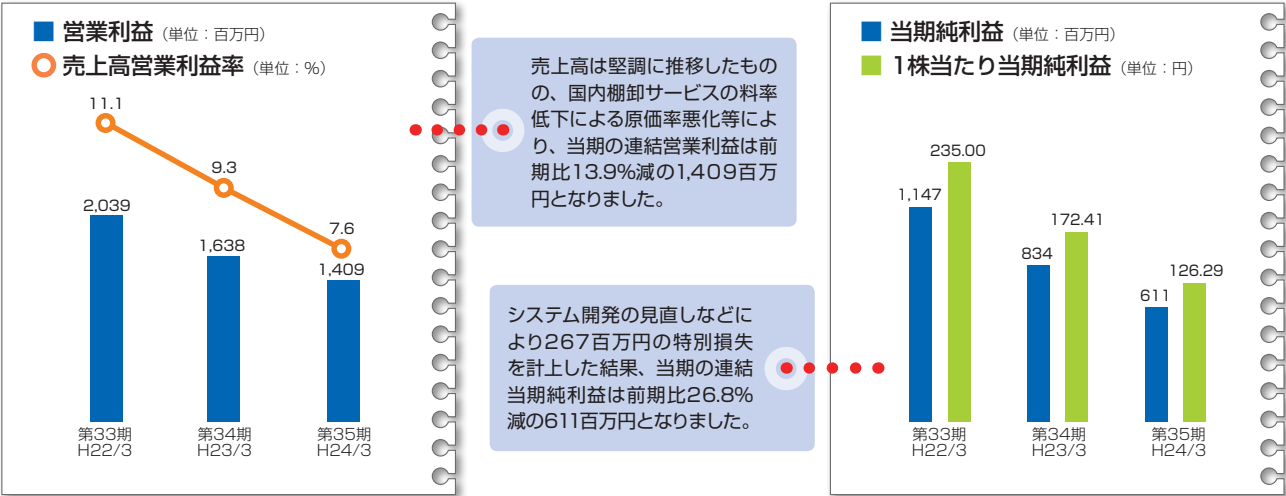


* 当連結会計年度から、「その他」に含まれていた「海外棚卸サービス」と「リテイルサポートサービス」について、投資家に対する積極的開示の観点から報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

財 政 面

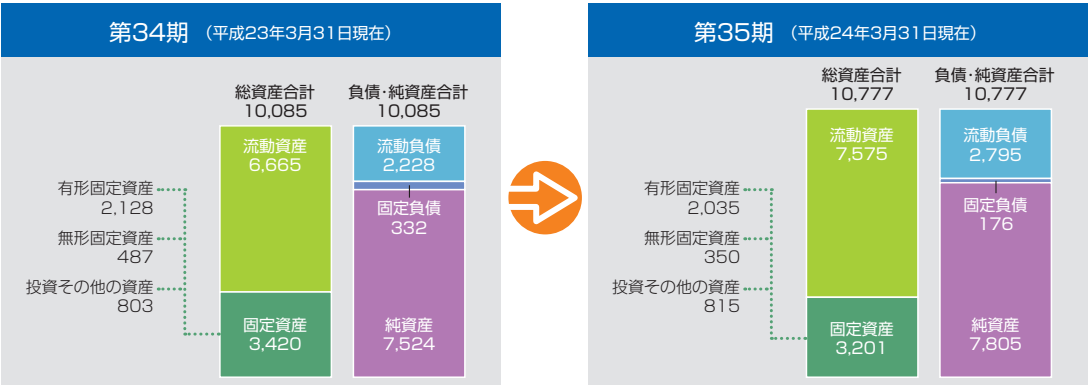


収 益 面



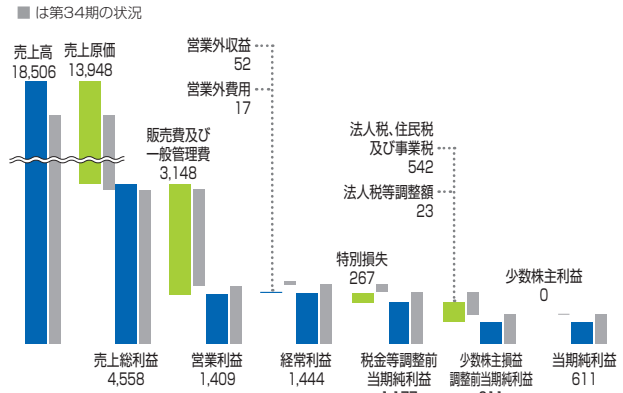
貸借対照表の概要

(単位：百万円)



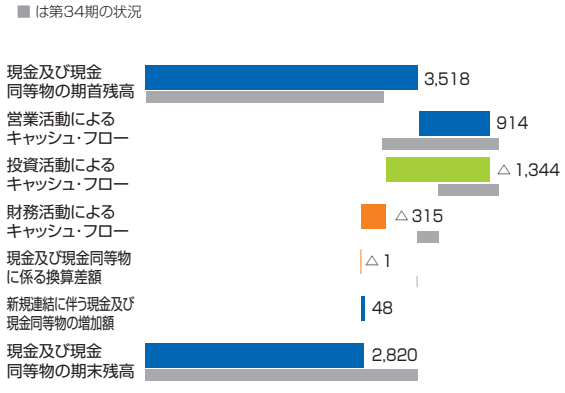
損益計算書の概要

(単位：百万円)



キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)



株式情報

株式の状況（平成24年3月31日現在）

発行可能株式総数…………… 14,000,000株
発行済株式の総数…………… 5,385,600株
株主数…………… 2,651名

大株主（上位10名）（平成24年3月31日現在）

株主名	当社への出資状況	
	持株数（株）	出資比率（%）
有限会社斉藤ホールディングス	1,211,900	22.50
齋藤昭生	790,080	14.67
ビービーエイチ フィデリティ ロー プライスド ストック ファンド	538,500	9.99
齋藤茂男	203,900	3.78
小林美保子	191,800	3.56
齋藤泰範	127,670	2.37
野村信託銀行株式会社（投信口）	105,100	1.95
エイジス従業員持株会	94,656	1.75
清水昭順	90,170	1.67
資産管理サービス信託銀行株式会社 （証券投資信託口）	62,600	1.16

（注）当社は、自己株式543,782株を保有しておりますが、上記大株主から除外して
おります。

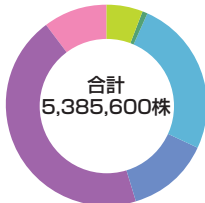
利益配分に関する基本方針

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重点課題と位置付けており、
長期的に安定した収益力を保持すると同時に、企業体質強化のための内部留
保を勘案し、安定した利益配分を持続させることを基本方針としております。

当期の配当につきましては、1株当たり期末配当45円とさせていただきます。
一方、内部留保資金につきましては、今後予想される経営環境の変化
に対応すべく、今まで以上にコスト競争力を高め、市場ニーズに応える技術・
オペレーション体制を強化するために有効投資してまいりたいと考えており
ます。

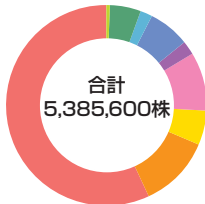
所有者別分布状況（平成24年3月31日現在）

■ 金融機関	314,780株	（5.84%）
■ 金融商品取引業者	44,218株	（0.82%）
■ その他の法人	1,370,670株	（25.45%）
■ 外国法人等	718,274株	（13.34%）
■ 個人・その他	2,393,876株	（44.45%）
■ 自己名義株式	543,782株	（10.10%）

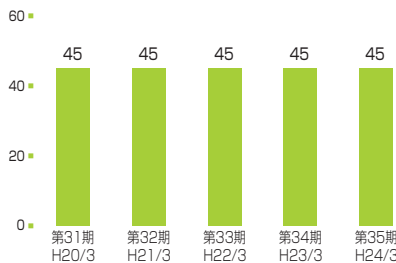


所有株数別分布状況（平成24年3月31日現在）

■ 1単元未満	3,807株	（0.07%）
■ 1単元以上	274,914株	（5.11%）
■ 5単元以上	97,120株	（1.80%）
■ 10単元以上	371,746株	（6.90%）
■ 50単元以上	118,515株	（2.20%）
■ 100単元以上	505,290株	（9.38%）
■ 500単元以上	301,476株	（5.60%）
■ 1,000単元以上	628,470株	（11.67%）
■ 5,000単元以上	3,084,262株	（57.27%）



1株当たりの配当金の推移（単位：円）



会社概要／主要取引先

会社概要（平成24年3月31日現在）

会 社 名 株式会社エイジス
（英文名 AJIS CO., LTD.）
資 本 金 475百万円
設 立 年 月 日 1978年5月23日
従 業 員 数 261名（492名 ※連結）
営 業 拠 点 直営48カ所 FC34カ所
（合計82カ所）
業 務 内 容 ● 実地棚卸サービス
● その他の流通業周辺サービス
主要取引銀行 ● 三菱東京UFJ銀行
● 千葉銀行
● みずほ銀行
● 三井住友銀行
ホームページ <http://www.ajis-group.co.jp/>

取締役および監査役（平成24年6月28日現在）

代表取締役社長 齋 藤 昭 生
常 務 取 締 役 近 江 元
常 務 取 締 役 高 橋 一 人
取 締 役 竹之下 正 夫
取 締 役 戸 丸 富志夫
取 締 役 山 根 洋 行
取 締 役 手 塚 勝 也
取 締 役 平 石 智 之
取 締 役 福 田 久 也
取 締 役 森 和 弘 ※1
常 勤 監 査 役 鈴 木 行 雄
常 勤 監 査 役 増 子 泰 由 ※2
監 査 役 安 田 登 ※2

※1 森 和弘は、会社法に定める社外取締役であります。

※2 増子 泰由および安田 登は、会社法に定める社外監査役であります。

主要取引先（平成24年3月31日現在）

コンビニエンスストア サークルKサンクス スリーエフ セーブオン	セブン-イレブン・ジャパン デイリーヤマザキ ファミリーマート	ボブラ ミニストップ ローソン
G.M.S./スーパーマーケット アルビス イオンリテール イオンキミサワ イズミ イズミヤ イトーヨーカ堂 いなげや ウオロク オークワ オオセキ オギノ Olympic カスミ	関西スーパーマーケット コープこうべ コープネット事業連合 サミット サンセブン 大黒天物産 東急ストア とりせん 長崎屋 原信ガルスホールディングス パロー ベイシア 平和堂	ベルク マックスバリュ各社 マルエツ 万代 みやぎ生協 ヤオコー ヤマザワ ヤマナカ ユーコープ事業連合 ユニバース ヨークベニマル ライフコーポレーション
百貨店 大丸松坂屋百貨店 高島屋 天満屋	東急百貨店 阪急阪神百貨店 松屋	丸井 三越伊勢丹ホールディングス
ホームセンター/ドラッグストア/ディスカунストア ウェルバーク カインズ カワチ薬品 クスリのアオキ クリエイト エス・ディー ケーヨー ゲンキー コーナン商事 コクミン サンデー	サンドラッグ CFSコーポレーション ジップドラッグ 島忠 スギ薬局 セイジョー セキチュー ダイユーエイト 千葉薬品	富士薬品 PLANT ホームマック マツモトキヨシ ユタカファーマシー ユニリビング ライフオート LIXILビバ ロイヤルホームセンター
書店 あおい書店 旭屋書店 ヴィレッジヴァンガードコーポレーション 勝木書店 カルチュア・コンビニエンス・クラブ 紀伊國屋書店	三省堂書店 三洋堂書店 JR東日本リテールネット ジュンク堂書店 文教堂 文真堂書店	丸善書店 宮協書店 未来屋書店 有隣堂 リブロ
アパレル エディー・パウアー・ジャパン ギャップジャパン クリスチャン ディオール ゴールドウィン ザラ・ジャパン	ジョルジオ アルマーニ ジャパン 東京シャツ 西松屋チェーン バル ポイント	ポロラルフローレン ユニクロ ライトオン ワークマン ワールド
その他 赤ちゃん本舗 アディダス ジャパン エディオン キャンドウ 九九プラス コーチ・ジャパン コジマ コジマ 上新電機	ゼビオ セリア 東京シャツ 大創産業 メガスハンズ ドライバーズスタンド ドン・キホーテ トリ 日本トイザらス	ビックカメラ ヒラキ 藤久 メガススポーツ やまや 良品計画 ロフト ローソンHMVエンタテイメント

※ 敬称・法人格は省略させていただいております。 ※ 50音順